

ふるさと歴史アラカルト

思いを文章に残して

日々を過ごしていると、心に感じ入る情景や思いがけない喜びに出会うことがあります。その一方で、やるせない気持ちややり場のない怒りに駆られることもあります。そういった心の動きを残すため、あるいは感情を整理するために文字にする人も多いのではないのでしょうか。江戸時代においても同様で、その中には日記や手紙として現在に残っているものもあります。今回は『大しま日記』という資料からその記録をのぞいてみましょう。

この日記は、江戸時代末期の岩国の医師であり国学者でもある熊谷千邦が記したものです。久賀浦の僧侶・大洲鉄然の寺にいる患者を往診した際の記録で、国学者らしく和歌を交えて感情や情景を表現しています。

往路は出航する港で強風により足止めされますが、その後は順風満帆の旅路となり、笛を吹いたり和歌を詠んだりしながら久賀浦に到着します。寺では診察だけでなく、鉄然と交流もしています。和歌を詠んだことがない鉄然

が、千邦に和歌を教えてほしいと懇願したため基礎を教えたところ、良作を多く詠んだようです。千邦は「才能がある上に、書や漢詩を習っているからだろう。今後もし「鉄然の和歌の巧妙さを評しています。」

その後、患者に回復の兆しが見られため、千邦は岩国に戻ろうとしますが天候に恵まれず、断念することになります。このことに対し千邦は、「(私に帰らないでほしいという)患者の気持ちのせいだろうと寺にいる人たちはうれしそうに言うが、私はまたも足止めを食らって、もううんざりしてしまっただけ」と嘆きを記しています。

千邦は、翌日、雨の中なんとか岩国に到着し、慣れ親しんだ情景を見て安心した気持ちを次のように詠みました。御城山は雨にくもりて見えねとも君ますかたと頼まるるかな(※2)このように資料を読み、作者の個人的な思いに触れることができたとき、江戸時代というはるか昔の人が少し身近に感じられるような気がします。

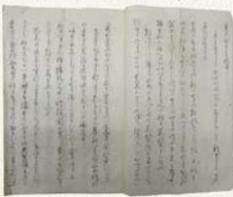
岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

2月27日(日)まで企画展「近世岩国の考える人々」を開催しています。

※1 現在の周防大島町久賀

※2 御城山(横山)は雨で曇って見えないけれども、主君がいらっしゃる方向がこちらであるなど自然と思われことだよ



写真：『大しま日記』熊谷千邦著 江戸時代末期の日記とみられる

岩国市 人口・世帯

人口 130,472人【前月比 -160人】 男性 62,181人 女性 68,291人

世帯 65,443世帯【前月比 -97世帯】 ※外国人人口を含む(2021年12月1日現在)

交通事故発生件数

11月分事故件数 16件(191件) 死者数 0人(5人) 傷者数 21人(226人)

※高速道路発生分を除く。()内は2021年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337